

HATで「ほっと」できる場所 兵庫県立大学 ほっとKOBE



活動目標：HATに「笑顔」が広がるように

HAT神戸の現状と問題点

阪神・淡路大震災から22年が経つ今、復興公営住宅では入居者の高齢化、住民同士の繋がりの希薄が深刻となっています。震災発生当時、復興住宅への入居は高齢者世帯を優先し、抽選で決められました。その影響により、震災前に存在したコミュニティは崩壊し、孤独を感じる高齢者の、孤独死や自殺が相次ぎました。HAT神戸は震災後に出来た、元々コミュニティのない新しい街です。復興住宅が数多く建ち並んでいます。近年入居した母親世代や子ども達と、高齢者との繋がりは、ほとんどありません。復興住宅で、幅広い世代のコミュニティ形成が困難な状況となっています。



活動目的

- ①復興公営住宅に住む高齢者の孤独、寂しさを癒す
- ②幅広い世代の地域コミュニティ形成の支援
- ③子どもの居場所の提供

HAT神戸灘の浜の復興公営住宅1階テナントを拠点としています。地域の高齢者から子ども達まで、誰もが集える場所です。学生が運営し、学生が幅広い世代間の橋渡しを担うことで、住民同士の繋がりをつくる活動をしています。



取り組み

- ① 毎週月曜日、高齢者の方にお茶やお菓子を出してゆったり世間話をしています。1時間以上お話しする方や、買い物がてら挨拶だけしに来てくださる方もいらっしゃいます。訪れる方は日に日に増え、「ここに来るとほっとするね」と言っています。
- ② 月1回の頻度で、イベントを開催しています。おでんの販売や、地域のお花の植え込み、ハロウィン「トリックオアトリート」、クリスマスパーティなど多岐にわたります。地域に賑わいをもたらし、イベントをきっかけに多くの住民さんが交流できる場となっています。地域の様々な催し物にも積極的に参加し、運営のお手伝いをしています。
- ③ 子ども達とランプやかくれんぼをして、一緒に遊んでいます。日頃感じていることなどを、学生に沢山お話しに来てくれます。

高齢者から子どもまで幅広い世代が、ひとつの空間に集い交流できることが、ほっとKOBEの良い点です。



活動の効果

活動開始から1年、ほっとKOBEは地域に密着し、地道に活動してきました。1年前に知り合ったおばあさんは、当時ほとんど笑わない方でした。毎週学生が声をかけ続けることで、今では本当に素敵な笑顔で遊びに来てくださいます。

ほっとKOBEで知り合ったおじいさん、おばあさんと、子ども達が、ほっとKOBE以外で挨拶を交わすようになりました。住民同士で、高齢者を見守る目が出来つつあります。ほっとKOBEがなければ知り合えなかった、人と人との繋がりの輪が広がっているように思います。

今後の展望と課題

ほっとKOBEを利用しにくいと感じている方は、まだ大勢いらっしゃいます。お家に引きこもり気味の高齢者、また、子育てに悩み周りに相談する人がいないお母さん、問題を抱えている子ども・・・そういった方がほっとKOBEで、地域の方々と繋がることが出来るように、イベントや普段の活動を工夫していきます。

また、災害が起こった際に地域で助け合える、強いまちになるための地域コミュニティ形成をしたいと考えています。学生ができる地域防災について今後より深く学び、実践していきます。

ほっとKOBEのマネジメント

ほっとKOBEをマネジメントしていく中で、私たちは①人、②お金、③情報という三本の柱を立てました。

- ① 活動メンバーを集めるために大学で講演させて頂いたり、チラシを配りました。メンバーとは毎月1回のミーティングを欠かさず行い、活動の方向性や問題点を共有しています。
- ② 2016年度、この活動の意義や効果が認められ「神戸市パートナーシップ活動助成」という、補助金を神戸市から頂いています。また、有料イベントを開催した際、住民さんから日頃の感謝の意を込めて、沢山の寄付も頂きました。
- ③ ほっとKOBEを起点とし、行政や自治会、NPO、その他のボランティア団体、住民さん達という大きなネットワークを作りました。しかしこれは容易なことではありませんでした。地域に密着し、時に我慢強く様々な人に働きかけ、活動を継続した成果だと思っています。ほっとKOBEの中だけに留まらず、大勢の人達と繋がりを得たことが、とても嬉しいです。

